

小和田地区 防災×まちづくりシンポジウム 開催報告

令和4年5月15日(日)

辻堂西口 YU-ZU ルームで防災×まちづくりシンポジウムを開催

茅ヶ崎市は、自助・共助による地域防災力を強化し災害に強いまちづくりを目指す「防災×まちづくりワークショップ」を2009年度から各地区で開催しており、2019年度は小和田地区で実施しました。

小和田地区の取り組みを広く共有し、今後の防災まちづくりを話し合うため「防災×まちづくりシンポジウム」を、5月15日(日)に感染防止対策を実施した上で開催しました。

第1部では、東京大学、加藤先生の基調講演が行われました。また、ワークショップの開催報告の他、まちづくり事業の報告を行いました。

第2部では、「地域の“わ”を繋ぐ、まちづくり」多世代と多様性の“わ”を繋ぎ、持続可能なまちをテーマとした防災×まちづくり円卓会議を、加藤先生と地域の皆さんで行いました。

<シンポジウム内容>

日時:5月15日(日)13:30~16:30

場所:辻堂西口 YU-ZU ルーム(本会場)

市営小和田住宅外複合施設(サテライト会場)

参加人数:40人

第1部

◆基調講演「みんなで取り組む防災“も”まちづくり」

◆小和田地区防災×まちづくりワークショップ開催報告

◆地域で取り組む防災×まちづくり事業報告

第2部

◆防災×まちづくり円卓会議「地域の“わ”を繋ぐ、まちづくり」

コーディネーター:加藤先生

パネリスト:地域の皆さん

<第1部>



<第2部>



基調講演「みんなで取り組む防災“も”まちづくり」 東京大学 加藤先生

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻修士課程修了後、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻助教、生産技術研究所准教授等を経て2019年4月より現職。

専門分野は、都市計画、まちづくり、地域安全システム学、災害シミュレーション技術、それを社会に結びつける「まちづくり支援技術」の開発、市民協働の防災まちづくりを実践する。

地震防災に加え、気候変動の時代に対応した大規模水害に備える街づくり、事前復興・復興準備を研究テーマとする。

理論、技術開発の他、時代をふまえた地域づくりの新しいモデルづくりを自治体や地域社会と連携して実践する。

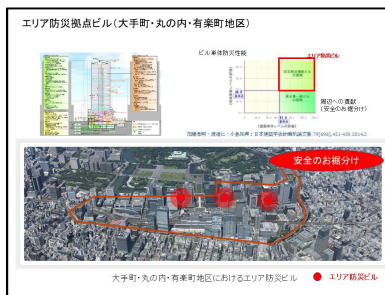


◆地域から始める「防災【も】まちづくり」

防災だけでは取り組みにくいことを理解し、防災の推進力・持続性を高める

- ・災害への備えを日常に織り込む
- ・他の地域課題とあわせて総合的に考える
- ・日常のプラスを生み出すことで災害への備えを加速する

<エリア防災拠点ビル認証>



<秋田県男鹿市のなまはげ>



防災もまちづくり事例

◆災害時自立生活圏構想

- ①圏域内の需要を減らす
- ②資源を膨らませる = 既成概念(既定のリソースだけの利用)からの脱却
- ③圏域内に新たな機能を創出する

◆地域から始める「防災【も】まちづくり」すすめ方

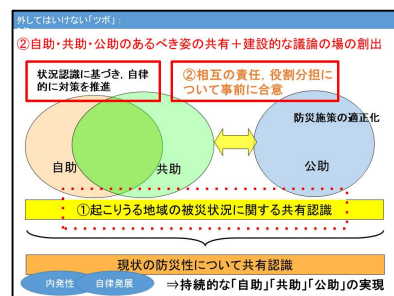
①ものづくりの2つの方法

ブリコラージュ: 冷蔵庫をみて何をつくるか考える
 エンジニアリング的: レシピを入手し、それに従って料理をつくる



②自助・共助・公助のあるべき姿の共有 + 建設的な議論の場の創出

共助と公助が「協働」する意識を持つこと
 地域側: 「共助の限界を公助が担うべし」
 先に地区防災計画の策定があり、地域で対応できない部分を行政に要求
 行政側: 「公助の限界を共助が担うべし」
 先に地域防災計画の策定があり、行政で対応できない部分を地域に課す

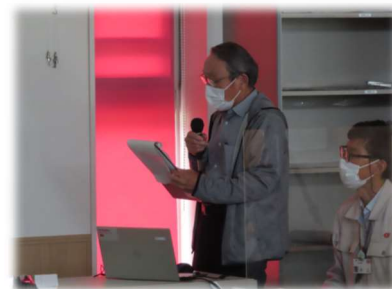


③地域社会に埋め込むべきキーワードと必要とされるアプローチ

- 「総合性」: 防災だけではなく、総合的・地域課題を考える
- 「内発性」: 自分たちでやるべき、やりたいと思う
- 「自律発展性」: やりながら、内容が膨らんでいく
- 「市民先行・行政後追い」: 市民が先に進み、行政が後追いの支援するアプローチ
- 「多様性 + 緩やかな連携」: 活動主体・内容の多様性の確保と地域組織の緩やかな連携が「総合性」「内発性」「自律発展性」を下支えする

◆小和田地区ワークショップ開催目的

これまで地域に居住してきた住民と新たに居住する住民間の接点を創出するために、新しい視点を取入れながら、若い人や転入者など幅広い人へ地域住民意識を根付かせて担い手のすそ野を広げて、これからのまちづくり活動を強化するために開催しました。



赤松自治会 永合さん

◆ワークショップの概要

＜第1回ワークショップ＞

第1回ワークショップでは、加藤先生の基調講演があり、「自助」「共助」「公助」それぞれの役割を考えることや、地域で起こりうる災害のイメージを持つことの重要性、防災まちづくりのポイントなど、あらゆる視点からのお話がありました。

体験学習ブースを設置して、スタンプラリー形式で楽しみながら体験してもらいました。

令和元年(2019年)

11月24日(日) 第1回 防災×まちづくりワークショップ プログラム

《開催のあいせつ》 小和田地区まちづくり協議会 新倉 昭人 会長	《地域の基礎データ》 小和田地区(赤松町・本宿町)の基礎データ ①まちの変遷 赤松自治会 風岡 学 副会長 ②基礎データ 茅ヶ崎市 都市政策課
《基調講演》 テーマ 「地域から進める防災」も「まちづくり」 講師 東京大学 生産技術研究所 加藤 孝明 教授	《体験学習》 体験ブーススタンプラリー 《閉会のあいせつ》 小和田地区まちづくり協議会 辻堂駅前周辺まちづくり部会 小宮 宏文 会長

《アイスブレイク》
赤松町クイズ

＜第2回ワークショップ＞

第2回ワークショップでは、2コースを大人班と子供班に分かれてまちあるきをしました。

災害時に危ない所の発見や災害時に活かせる資源の発掘を目的として歩き、戻ってきて危険箇所について話し合い、発表しました。

令和元年(2019年)

12月22日(日) 第2回 防災×まちづくりワークショップ プログラム

《開催のあいせつ》 小和田地区まちづくり協議会 辻堂駅前周辺まちづくり部会 小宮 宏文 会長	《まちあるきのすまめ方》 まちあるきの視点を確認 《まちあるき》 赤松探検団!!「赤松・赤松町コース」「本宿コース」 ～実際にまちを歩き、地域の危険度や地域資源を知ろう～
《発表・講評》 参加者からの発表 加藤孝明教授からの講評	《まちあるきのまとめ》 まちあるきで見たものを分類しよう 《閉会のあいせつ》 赤松自治会 風岡 学 副会長

＜第3回ワークショップ＞

第3回ワークショップでは、まちあるきをふまえて小和田地区の課題を話し合いました。

良いところや課題を解決するための取組みアイデアを話し合い、発表しました。

令和2年(2020年)

1月26日(日) 第3回 防災×まちづくりワークショップ プログラム

《開催のあいせつ》 赤松町自治会 新戸 孝 会長	《閉会のあいせつ》 小和田地区まちづくり協議会 辻堂駅前周辺まちづくり部会 小宮 宏文 会長 小和田地区まちづくり協議会 新倉 昭人 会長
《グループワーク》 【小学生】「おもしろいマップを作ろう！」 【大人班】この「まち」をより良くするために・・・ 「まち」の課題解決の方向性を考えよう!! 《発表》 小学生班・大人班それぞれの代表者から発表	《無り盛り》 ワークショップの振り返り 《講評・講演》 加藤孝明教授からの講評・講演

◆ワークショップ後の取組みについて

ワークショップで採用された取組みアイデアは、コロナ禍の影響で一部実施困難な状況となり未実施のアイデアもありますが、今後も引き続き取組んでいきます。

令和元年度 小和田地区 防災×まちづくりワークショップ

<https://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/machidukuri/1007927/1008018/1036690.html>



地域で取り組む防災×まちづくり 事業報告

◆防災×まちづくり事業

ワークショップで検討した取り組みアイデア等を基に、「地域で取り組む防災×まちづくり事業企画(案)」を作成し、事業を実施しています。

消火器ボックスの色塗り事業は令和2年に、感震ブレーカーの普及促進は、令和2年より継続して事業を実施しています。

みちの愛称プロジェクトは、令和2年から事業を開始して、令和3年に地域の主要道路に看板を設置しています。



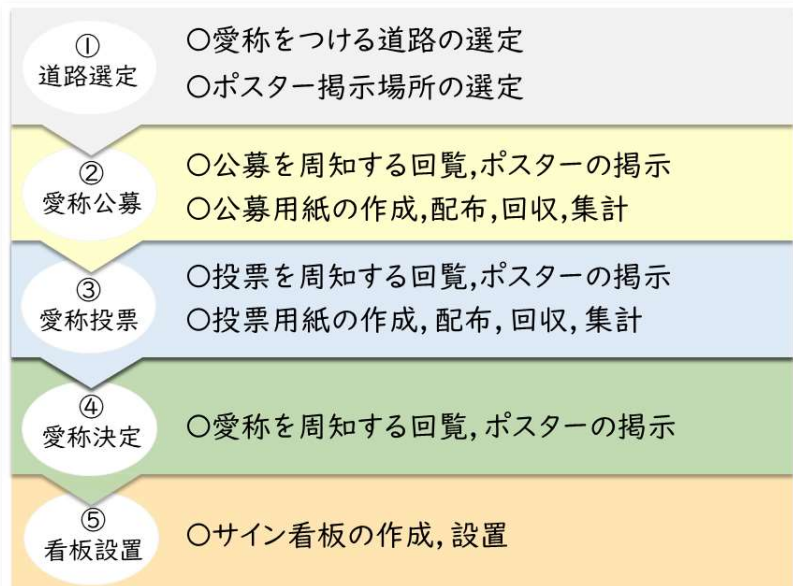
辻堂駅西口周辺まちづくり部会 会長
小宮さん

◆みちの愛称プロジェクト事業

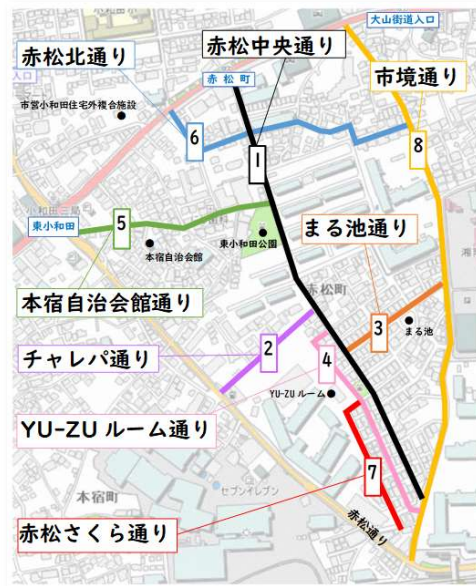
みちに愛称をつけ、その愛称が地域に根付き、住人の共通認識となれば、コミュニケーションがとりやすくなるだけでなく、非常時にも活用できるのではないのでしょうか。

災害時のみならず日常的な地域コミュニティを活性化させることを目的に、赤松町内の主要道路に愛称を付ける「みちの愛称プロジェクト」事業を行うことにしました。

<みちの愛称プロジェクトのながれ>



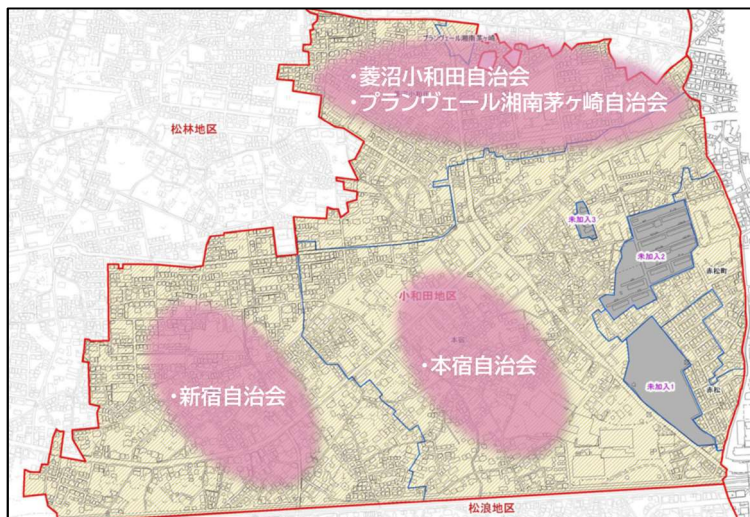
<みちの愛称と看板設置場所>



◆みちの愛称プロジェクトの今後

小和田地区全体での事業として、本宿自治会、新宿自治会、菱沼小和田自治会、プランヴェール湘南茅ヶ崎自治会エリアでも進めていく予定です。

<サイン看板例>



第2部

防災×まちづくり円卓会議「地域の“わ”を繋ぐ、まちづくり」

コーディネーター：加藤先生

パネリスト：島崎さん(小和田地区まちづくり協議会 副会長)

パネリスト：豊田さん(小和田地区まちづくり協議会 交通安全部会)

パネリスト：川原さん(PTA)

パネリスト：佐久間さん(菱沼小和田自治会)

パネリスト：池田さん(赤松町自治会)

パネリスト：藤田さん(新宿自治会)

パネリスト：南さん(菱沼小和田自治会)

パネリスト：山口さん(赤松自治会)



◆防災×まちづくり円卓会議

円卓会議では、加藤先生と地域の住民の皆さんが、小和田地区の抱えている課題やこれからの小和田地区について話し合いました。



<加藤先生>

防災もまちづくりは持続性が極めて重要で、持続させていくための必要条件として、地域の「わ」というものが非常に重要となります。

その「わ」をこのまちでどう育んでいくのか、育みつつ何をしていくのかっていうことを最後アウトプットできればいいかなと思っています。

<山口さん>

皆さん戸建てに住まれてる方が多いと思います。私はシエリアという全312世帯の大規模集合住宅の自治会から参加しています。防災という観点でみると大規模集合住宅の場合は、理事会の中に災害対策組織があり、その中で自立的に動く形になっています。

防災もまちづくりという切り口で自治会とうまく整合していくにはどうしていくべきか、災害対策を考えてる上でも非常に気になっています。

今後の方向性として自治会の下に集合住宅の防災組織が繋がるのがいいのか、あるいは独立して市に直接繋がる方がいいのかということが課題となっています。

<川原さん>

ボランティアセンターでボランティア活動をしているのですが、「こんにちは。」と言える人が増えました。こういう小さなことが防災もまちづくりにつながるのではと考えています。

「全く知らない人」と「少し知っている人」というわずかな違いかもしれませんが、実は災害時には大きな違いになるのではないかと思います。

<加藤先生>

皆さんの話を伺うと小和田地区は「わ」が繋がりがやすい地域なのかということを感じています。

ここ数年はコロナの影響で地域イベントが中止になってしまい、人と顔を合わせる機会が難しい状況となりました。一方で在宅勤務者が増えていて、地域にこのような活動を担える人材が潜在的に増加している可能性があります。

防災×まちづくり円卓会議「地域の“わ”を繋ぐ、まちづくり」

<藤田さん>

YU-ZU ルームの開所式は参加しましたが楽しかったです。その後すぐコロナ禍になってしまい YU-ZU ルームも閉鎖され自治会の行事も中止となる状況で、人と出会う機会も減ってしまいました。

現在はコロナも落ち着いてきて、この YU-ZU ルームも再開されたので、ここを活用しながら地域の繋がりを作っていけたら良いのではないかと思います。



<池田さん>

赤松町自治会で地域の「わ」をどうやって広げていくかという所にポイントを置いて取り組んできました。

自治会の加入率を上げたいところですが、赤松町周辺はアパートが増加しておりなかなか加入者が増えないのが現状です。

災害時は自治会加入者以外の方たちとも出来るだけ助け合いたいと考えています。

「防災対策」以外にも「ごみ問題」や「高齢者対策」等の問題もあるので、近隣住民との「わ」を広げていくことで防災に繋がっていくのではないかと考えています。

<佐久間さん>

小学校でも防災訓練をします。自治会の防災訓練の時に小学生も交えて、子供たちが学んできた防災知識を取り入れた防災訓練を行うと面白いのかなって思いました。



<南さん>

自治会は高齢者が多いので、パソコンが使える若い人材が自治会に入っただけだと非常に助かります。

<加藤先生>

小和田地区の抱える問題は縦割りで考えると解けなくなるような気がします。

それぞれの役割で縦に切ってしまうと話が複雑になってしまい、マンションと戸建てとの関係性も防災だけを切り取るとマンションは完結してるから地域とは関係ないっていう話になってしまいます。

防災以外のテーマまで広げれば、戸建てとマンションは何かしらのギブアンドテイクがあるような気がするんです。だからそういう意味で縦割りではなるべく考えないようにする。

行政は縦割りですから横に繋げて考えたいけどベースは縦割りで考えざるを得ない。

だけど地域は、それを繋げて考えることができるので、そこを今一度深めていくと良い解決策に繋がっていくのではないかと思います。

◆総括

小和田地区は、戸建と集合住宅の戸数が半分ずつ位となっており、茅ヶ崎市内では珍しい地域特性を持っています。また、マンション単体の自治会が存在する特殊な地域となっています。

今後も地域の「わ」を繋げていくための活動を続け、YU-ZU ルームを地域の拠点として活用して盛り上げていかなければならないと考えております。



小和田地区まちぢから協議会 会長
新倉さん

シンポジウム感想カード

シンポジウムの際に、ご記入いただきましたご感想の一部をご紹介します。
貴重なご意見をありがとうございました。

今後、地域で取り組みたい内容について

- ・コロナ禍で実施できなかった「備蓄品を美味しく食べるコンテスト」を是非 YU-ZU ルームのキッチンでやって欲しいです。
- ・1人でも多く知り合いを増やし、いざというときにその人その人の持っているものが活かされるようなものになり、私には何ができるか…とまだまだ考えてみようと思う。
- ・自治会組織加入率の向上やアパート所帯との交流。(顔見知りを増やす→災害時の自助、共助の効率化)
- ・なまはげのエピソードに、まちづくりのヒントがあると思いました。
- ・近隣マンション(シエリア)との連携。
- ・自治会加入率の向上。
- ・子供や若者の意見も聞いて欲しい。通勤通学している人は地域外も見ているので参考にしてほしいです。
- ・みちの愛称を地域で使用できるか！
- ・備蓄品について、量の確認やおすすめの品など、詳しく知ることができる企画。
- ・地域のコミュニティの形成、地域の防災計画の作成検討、避難要支援者への支援行動の検討。

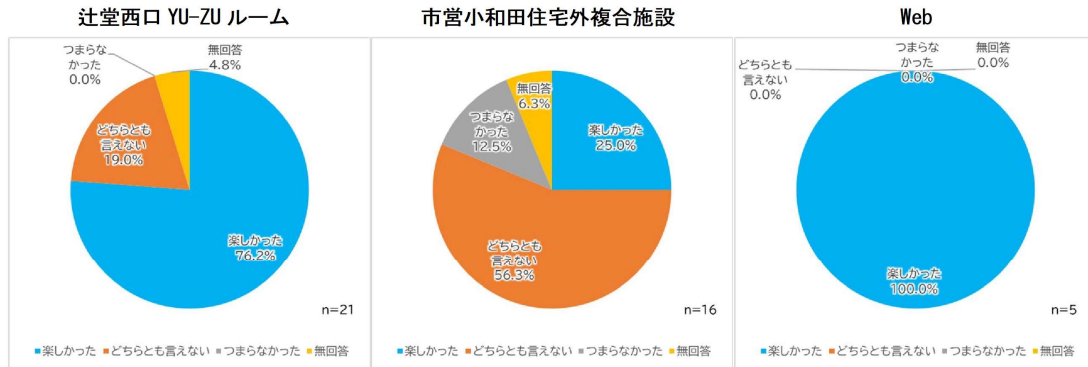
シンポジウムの印象や、言い残したこと、質問など

- ・より多くの住民が参加できるようにお願いしたい。意識改革になります。
- ・首都圏で大規模地震が発生すると、公助は機能しないと思うので、家庭での備蓄の重要性をより具体的に周知する取り組みが重要と考える。(食料品、燃料、電源の確保等)
- ・防災関連で有事の安否確認は、茅ヶ崎市で共通の安否確認アプリの導入が必要と考えます。アプリ使える方は、迅速に安否確認を終わらせ、アプリ使えない老人等に速く対面で安否確認できるように班の方が確認できるようにする。現状の安否確認方法は、自治会役員が不在の時破綻するリスク大。安否確認訓練は、単なるイベントになっている。
- ・人に、「～さん」よろしくお願いします…手伝ってくれるかなと言われる人を目指し、逆の意味でもお願いできるような人になることも大事な気がしました。
- ・減災の取組みも大切！
- ・近所から防げる！(コミュニケーション)
- ・コロナに負けないで活動していきたいものです。
- ・シンポジウム初参加です。まちづくりが防災もつながるということを知りました。大変勉強になりました。
- ・防災リーダー研修を今後も広めてほしい。(自治会未加入者も含む)
- ・「防災もまちづくり」は良いタイトル。防災を考えるときに輪を考える。輪を考えるときに年齢を考える。
- ・地域住民の皆様が、楽しく多世代交流も図りながら進めていらっしゃるの素晴らしいと思いました。
「ぼ～っと住んでんじゃないよ！」ってホントですね。
- ・YU-ZU ルームに来るまでに皆様が作られた看板を見てきましたが、町に対する愛情を感じて幸せな気持ちになりました。一市民として自分の住む町に対し何が出来るのか考えたいと改めて思いました。
- ・加藤教授の話は地域の連帯が結果「防災の力」だったと思います。これが今回の肝でした。楽しかったです。

シンポジウム感想カード

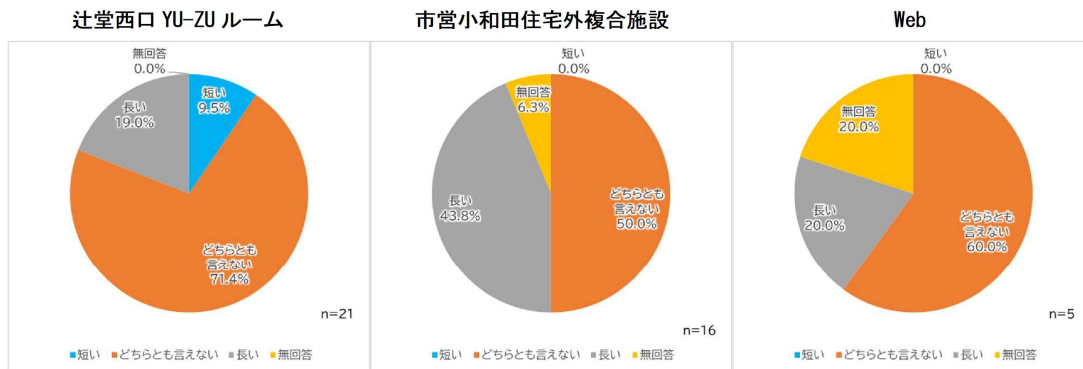
シンポジウムの際に、ご記入いただきましたアンケート結果をご紹介します。

①シンポジウムに参加したご感想は...？



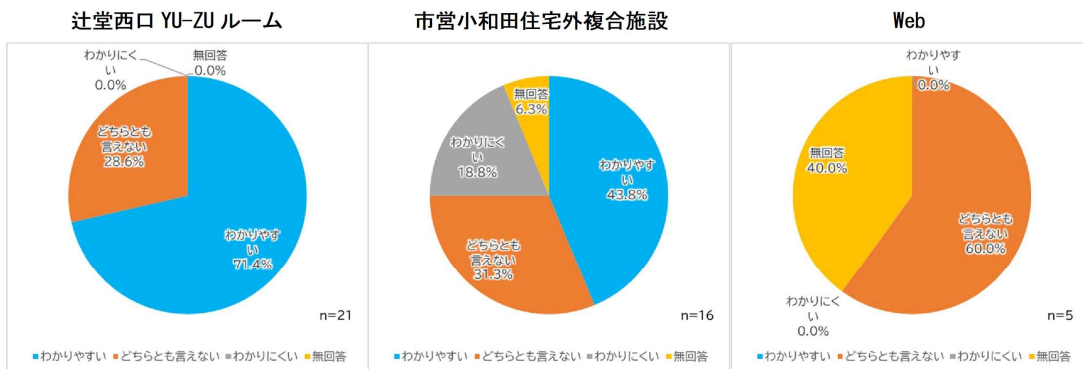
質問	①シンポジウムに参加したご感想は...？		
施設	YU-ZUルーム	市営小和田住宅外複合施設	Web
楽しかった	76.2%	25.0%	100.0%
どちらとも言えない	19.0%	56.3%	0.0%
つまらなかった	0.0%	12.5%	0.0%
無回答	4.8%	6.3%	0.0%

②シンポジウムの時間は...？



質問	②シンポジウムの時間は...？		
施設	YU-ZUルーム	市営小和田住宅外複合施設	Web
短い	9.5%	0.0%	0.0%
どちらとも言えない	71.4%	50.0%	60.0%
長い	19.0%	43.8%	20.0%
無回答	0.0%	6.3%	20.0%

③配布された資料は...？

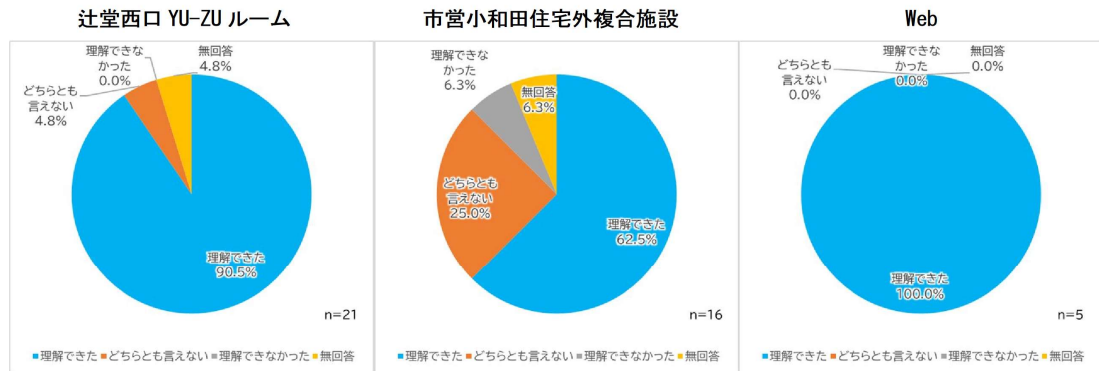


質問	③配布された資料は...？		
施設	YU-ZUルーム	市営小和田住宅外複合施設	Web
わかりやすい	71.4%	43.8%	0.0%
どちらとも言えない	28.6%	31.3%	60.0%
わかりにくい	0.0%	18.8%	0.0%
無回答	0.0%	6.3%	40.0%

シンポジウム感想カード

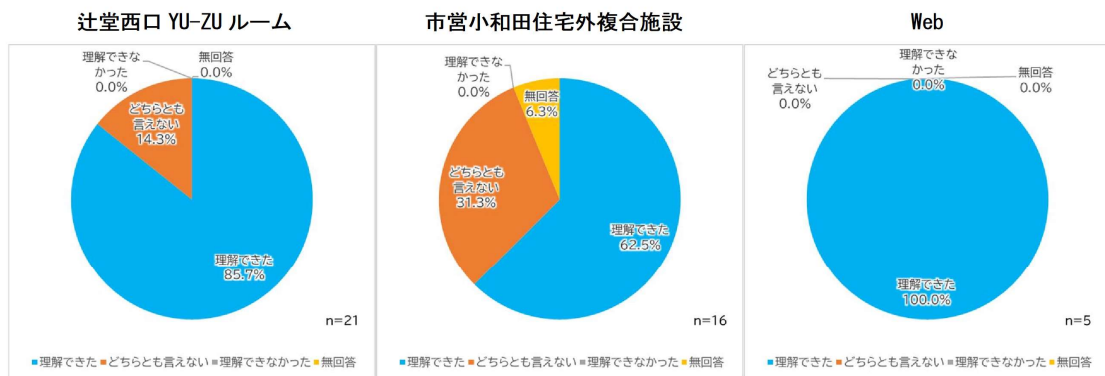
シンポジウムの際に、ご記入いただきましたアンケート結果をご紹介します。

④基調講演の内容は...?



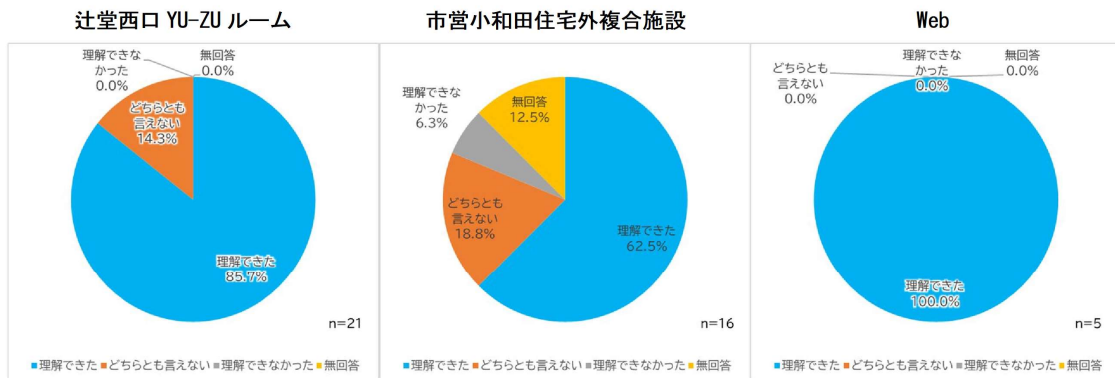
質問 施設	④基調講演の内容は...?		
	YU-ZUルーム	市営小和田住宅外複合施設	Web
理解できた	90.5%	62.5%	100.0%
どちらとも言えない	4.8%	25.0%	0.0%
理解できなかった	0.0%	6.3%	0.0%
無回答	4.8%	6.3%	0.0%

⑤小和田地区防災×まちづくりワークショップの報告内容は...?



質問 施設	⑤小和田地区防災×まちづくりワークショップの報告内容は...?		
	YU-ZUルーム	市営小和田住宅外複合施設	Web
理解できた	85.7%	62.5%	100.0%
どちらとも言えない	14.3%	31.3%	0.0%
理解できなかった	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	6.3%	0.0%

⑥地域で取り組む防災×まちづくり事業の報告内容は...?

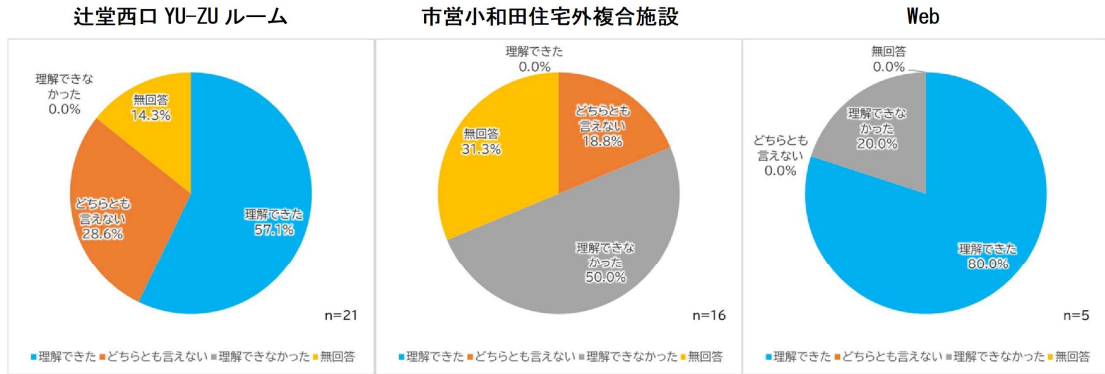


質問 施設	⑥地域で取り組む防災×まちづくり事業の報告内容は...?		
	YU-ZUルーム	市営小和田住宅外複合施設	Web
理解できた	85.7%	62.5%	100.0%
どちらとも言えない	14.3%	18.8%	0.0%
理解できなかった	0.0%	6.3%	0.0%
無回答	0.0%	12.5%	0.0%

シンポジウム感想カード

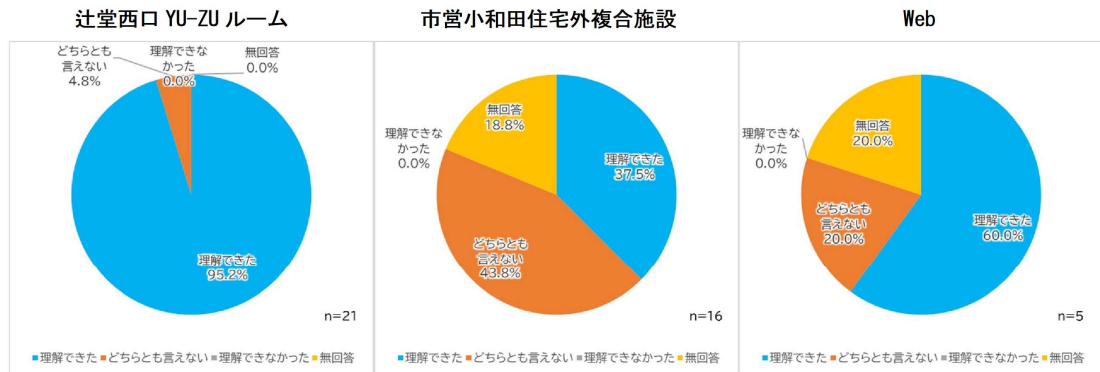
シンポジウムの際に、ご記入いただきましたアンケート結果をご紹介します。

⑦円卓会議の内容は...？



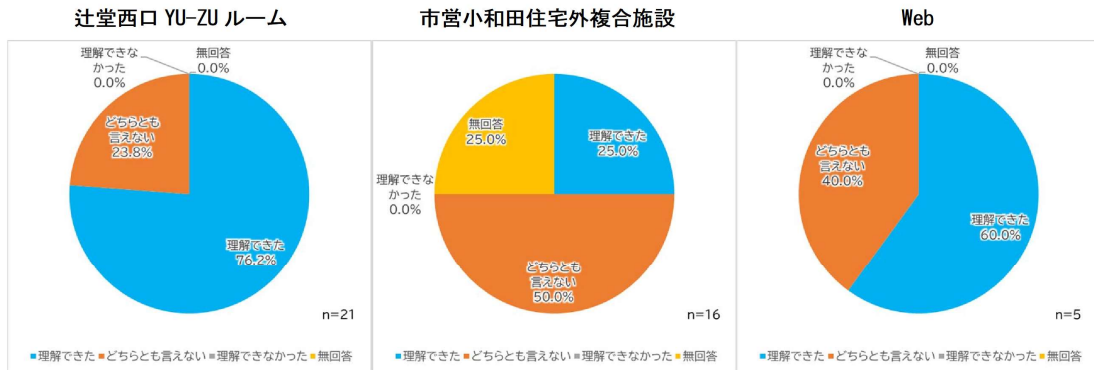
質問 施設	⑦円卓会議の内容は...？		
	YU-ZUルーム	市営小和田住宅外複合施設	Web
理解できた	57.1%	0.0%	80.0%
どちらとも言えない	28.6%	18.8%	0.0%
理解できなかった	0.0%	50.0%	20.0%
無回答	14.3%	31.3%	0.0%

⑧このシンポジウムに参加したことで防災の取り組みに対する意欲は...？



質問 施設	⑧このシンポジウムに参加したことで防災の取り組みに対する意欲は...？		
	YU-ZUルーム	市営小和田住宅外複合施設	Web
理解できた	95.2%	37.5%	60.0%
どちらとも言えない	4.8%	43.8%	20.0%
理解できなかった	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	18.8%	20.0%

⑨今後も防災まちづくりについて学校や地域で話していきたい...？



質問 施設	⑨今後も防災まちづくりについて学校や地域で話していきたい...？		
	YU-ZUルーム	市営小和田住宅外複合施設	Web
理解できた	76.2%	25.0%	60.0%
どちらとも言えない	23.8%	50.0%	40.0%
理解できなかった	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	25.0%	0.0%